

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 7 月 18 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (7/18 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 1.9 m ³ /h	38.2	106.8 kPa abs	A系:0.02 vol% B系:0.01 vol%
		給水系：約 3.4 m ³ /h			
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 5.8 m ³ /h	50.4	5.64 kPa g	A系:0.10 vol% B系:0.10 vol%
		給水系：約 3.0 m ³ /h			
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 5.1 m ³ /h	49.6	0.21 kPa g	A系:0.24 vol% B系:0.23 vol%
		給水系：約 3.3 m ³ /h			

*絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

・H24/7/18 9:30 夏期における原子炉関連温度上昇対策(原子炉へ注水する水を冷却し、原子炉関連温度の上昇を抑制する)として、処理水バッファタンク保有水の冷却用冷凍機を設置する工事をこれまで実施しており、試運転を開始。運転状態に問題がないことが確認できたため、同日 15:20、本格運用を開始。

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (7/18 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	28.0
2号機	循環冷却システム	運転中	29.0
3号機	循環冷却システム	運転中	27.5
4号機	循環冷却システム	運転中	37

*各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドラジンの注入を適宜実施。

【4号機】・H24/7/18 3:58 原子炉ウェルの塩分除去装置(モバイルRO装置)において、「ROモジュール運転圧力高圧異常」警報が発生し、同装置が自動停止。その後、現場確認により漏えい等の異常がないことを確認できたことから、同日 14:06、同装置を再起動。原因はフィルタの目詰まり等であると考えられることから、今後、運転状態を継続監視する。なお、4号機使用済燃料プール冷却系については異常なく運転中。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	→	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	7/12 10:43 ~ 7/18 10:06 移送実施
3号機	3号機 タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	7/18 10:24 ~ 移送実施中
6号機	6号機 タービン建屋	→	仮設タンク	7/18 10:00 ~ 16:00 移送実施

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (7/18 7:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	停止中*1	停止中	停止中*2	水バランスをみて断続運転

*1 フィルタの洗浄を適宜実施。

*2 H24 7/17 15:25～ 淡水化装置(逆浸透膜)の制御盤改造作業に伴い停止中。

- H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。
- H24/6/21 12:05 H1スキッド内のバルブ交換工事を行うために、セシウム吸着装置を停止。停止期間は約1ヶ月の予定。なお、バルブ交換工事期間中は第二セシウム吸着装置による処理を継続予定であり、滞留水処理、原子炉注水については問題ない。
- H24/7/18 7:23 第二セシウム吸着装置(サリー)において、淡水化装置(逆浸透膜)制御盤改造のため、同装置を一時停止。同日 16:35、当該作業完了に伴い、同装置の運転を再開。なお、淡水化装置(逆浸透膜)についても、当該作業完了に伴い、16:13 に運転を再開。

<5. その他>

- H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- H24/3/6 ～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- H24/3/14～ 港湾内の海底土拡散防止を目的として、固化土(被覆材)による海底土被覆工事の本格施工に着手。
- H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。

以上